

NUMOの対話活動の取り組み

2016年9月1日
原子力発電環境整備機構（NUMO）

1. 全国シンポジウムを踏まえた「地層処分セミナー」の開催

(1) 全国シンポジウムにおける主なご意見

- 少人数でコミュニケーションが取れる形で説明してほしい。
- 地方都市など全国各地で開催すべき。
- 参加者の9割が男性。女性や学生の参加者が少ない。
- 安全確保策や海外の取り組みをもっと知りたい。

(2) 「地層処分セミナー」の開催

- ・ (1) のご意見にお応えし、以下に留意し、「地層処分セミナー」を開催。

＜留意事項＞

- **小規模**の意見交換会を開催。きめ細やかな対話の実現、双方向性（質疑応答・意見交換）の強化
- **9都市シンポジウム開催都市以外**での開催
- 地方紙に加え、主婦、学生のアクセスが多い**ミニコミ誌、タウン誌への広告掲載**
- **安全確保策や海外の状況に関する説明を充実**

2-1. 「地層処分セミナー」の実施状況

(1) 「地層処分セミナー」の概要

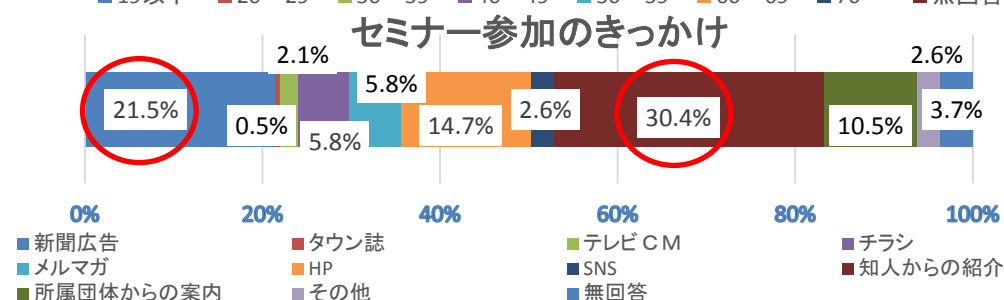
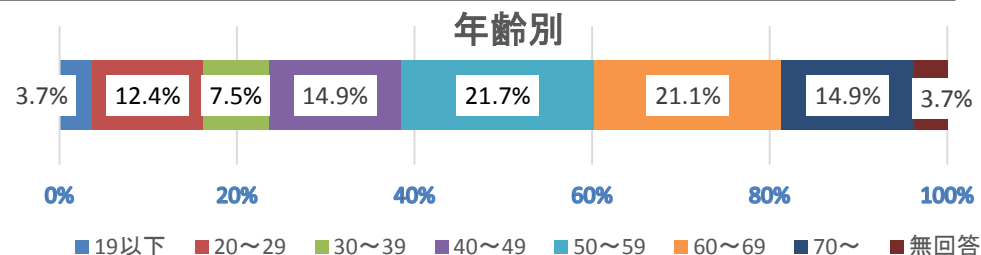
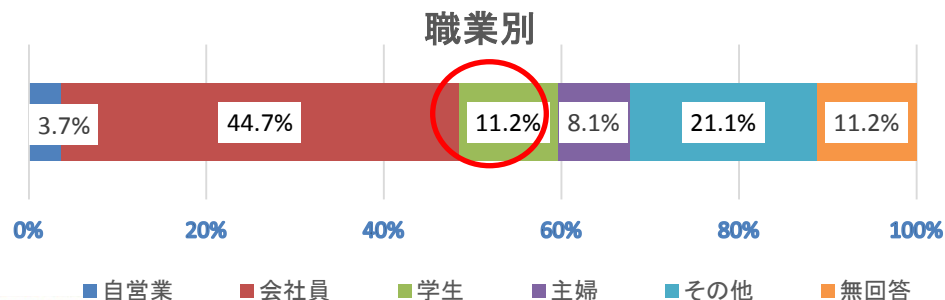
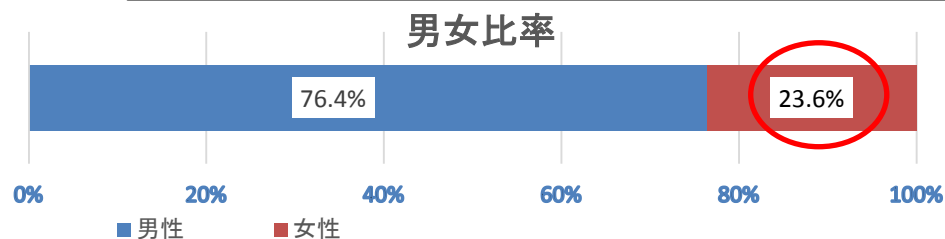
- 目 的 : 地層処分に関する全国的な理解促進
- 開催時期 : 2016年7月末～
- 開催場所 : 都道府県庁所在地で順次開催
(過去3回の9都市シンポの開催都市は除く)
- 定 員 : 50人程度
- 進め方 : DVD、専門家、機構職員による地層処分事業の概要や科学的有望地の検討状況等に関する説明およびグループに分かれての質疑・意見交換

＜地層処分セミナーの実施状況＞

日程	8	場所	参加者数
7月31日(日)		兵庫県神戸市	35名
8月6日(土)		埼玉県さいたま市	53名
8月20日(土)		長野県長野市	9名
8月20日(土)		佐賀県佐賀市	18名
8月27日(土)		山梨県甲府市	14名
8月27日(土)		鳥取県鳥取市	32名

(2) セミナー参加者の構成（神戸、さいたま、長野、佐賀、甲府、鳥取）

- 「女性」、「学生」の参加者が、従来に比べ大幅に増加。
(女性比率) 前回 12.4% → 今回 23.6% (学生比率) 前回 2.8% → 今回 11.2%
- セミナー参加のきっかけは、半数程度が「知人からの紹介」と「新聞広告」であった。



2-2. 地層処分セミナー参加者の声

- こんなセミナーは初めてだったので大変良かった。
- 質問をテーブルごとにされたのは、質問の機会が増えてよかった。
- 参加者の意見を一人一人聞いて頂けたのが良かった。
- 小グループでのコミュニケーションでよい。回答がわかりやすい。
- 将来の問題として考える良い機会なのに、参加者が少ないのは残念。
- 勉強したいと思って参加したが、専門用語が多く理解が難しい。説明する側と聞く側の隔たりが大き過ぎる。もう少し、聞く側の視点に立って、説明内容を工夫してほしい。
- いい事ばかりで、リスクを負うのは住民です。原発事故も想定外。同じように想定外の事が起きたとき、1000年先の人にどう説明するのですか。
- 安全と言われても信じられない。安全について分からないことだらけ。ほんとうに安全なのか、地震国で。放射能が漏れる可能性を否定できない。
- 国（資源エネルギー庁）の説明を聞きたい。

3-1. 「地層処分セミナー」におけるアンケート結果と評価

(1) 「地層処分に対する考え」に関するアンケート結果（神戸・さいたま・長野・佐賀・甲府・鳥取 N=161）

※本項目についてはセミナーの前後にアンケートを実施

①「地層処分が最も適切な方法である」ことについて

➤ セミナー前の肯定的意見(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)は全体の4割であったが、セミナー後は6割まで増加。現状「地層処分が最も適切な方法である」ことについて、一定の理解が得られたことによるものと考えられる。

質 問	選択項目	セミナー前	(単位：%)	セミナー後
①高レベル放射性廃棄物の処分方法の中では、地層処分が最も適切な方法であると思う。	そう思う	12		23
	どちらかといえばそう思う	28		38
	どちらともいえない	18		12
	どちらかといえばそう思わない	4		4
	そう思わない	15		10
	わからない・知らない	17		5
	無回答	6		8
		40		61

②「地層処分適地が日本に存在する」ことについて

➤ セミナー前の肯定的意見は全体の3割弱であったが、セミナー後は、4割となった。「日本には火山や地震が多い」ことや「科学的有望地の提示前である」ことなどから、慎重に判断する参加者もあった。

質 問	選択項目	セミナー前	(単位：%)	セミナー後
②地層処分に適している場所が、日本に存在すると思う。	そう思う	10		17
	どちらかといえばそう思う	18		24
	どちらともいえない	20		21
	どちらかといえばそう思わない	9		4
	そう思わない	20		17
	わからない・知らない	17		10
	無回答	6		7
		28		41

3-2. 「地層処分セミナー」におけるアンケート結果と評価

③「地層処分事業の安全性」について

- セミナー前の肯定的意見は全体の3割であったが、セミナー後は、5割弱となった。「前例（実例）がない」ことや「実証が困難である」ことから、慎重に判断する参加者もあった。この点については将来万一の事故が発生しても人間への影響が小さいことを丁寧に説明することで理解を促進する。

質 問	選択項目	セミナー前	(単位：%)	セミナー後
③地層処分事業は安全に実施できると思う。	そう思う	9	15増	17
	どちらかといえばそう思う	21		28
	どちらともいえない	26		24
	どちらかといえばそう思わない	5		3
	そう思わない	19		16
	わからない・知らない	14		4
	無回答	6		8
		30		45

④「地層処分事業を進める」ことについて

- セミナー前の肯定的意見は全体の3割強であったが、セミナー後は、6割弱に増加。「将来世代に負担を先送りできない」ことや、現状「地層処分が最も適切な方法である」ことから、一定の理解が得られたものと考えられる。

質 問	選択項目	セミナー前	(単位：%)	セミナー後
④地層処分を進めることに賛成である。	そう思う	14	23増	25
	どちらかといえばそう思う	20		32
	どちらともいえない	25		15
	どちらかといえばそう思わない	4		4
	そう思わない	16		14
	わからない・知らない	14		2
	無回答	7		8
		34		57

3-3. 「地層処分セミナー」におけるアンケート結果と評価

(2) 「満足度」「理解度」に関するアンケート結果（神戸・さいたま・長野・佐賀・甲府・鳥取 N=161） (単位：%)

- 「映像」、「説明」、「質疑応答」すべてのパートについて、理解度に関する肯定的意見が6割超であるとともに、セミナー全体の満足度に関する肯定的意見も7割弱と一定の評価が得られた。
- また、「満足した理由」としては、グループでの質疑に関するものが多く挙げられた。
 - ・「参加者の意見を一人一人聞いて頂けたのが良かった」
 - ・「質疑応答の時間が丁寧な対応でよく理解できた」
 - ・「テーブルで質問できたのは良かった」
 - ・「様々な視点からの意見を聞くことができた」
 - ・「テーブルでの話、学びは楽しかったです」

⇒科学的有望地提示後の対話活動でも「グループ質疑」の手法は有効

質 問	選択項目	回答
本セミナーに満足したか	満足した	3 1
	どちらかといえば満足した	3 6
	どちらともいえない	1 6
	どちらかといえば満足できなかった	5
	満足できなかった	5
	無回答	7
		6 7
映像は理解できた	そう思う	2 7
	そう思うどちらかといえばそう思う	5 1
	どちらともいえない	9
	どちらかといえばそう思わない	4
	そう思わない	1
	無回答	8
		7 8
説明は理解できた	そう思う	2 0
	どちらかといえばそう思う	5 4
	どちらともいえない	1 5
	どちらかといえばそう思わない	4
	そう思わない	1
	無回答	6
		7 4
質疑応答は理解できた	そう思う	2 2
	どちらかといえばそう思う	4 5
	どちらともいえない	1 6
	どちらかといえばそう思わない	3
	そう思わない	1
	無回答	1 3
		6 7

3-4. 「地層処分セミナー」におけるアンケート結果と評価

(3) 「NUMO職員」に関するアンケート結果 (神戸・さいたま・長野・佐賀・甲府・鳥取 N=161) (単位：%)

- 「説明の分かりやすさ」「納得感」「誠実さ」「身近さ」全ての項目について肯定的意見が6割以上と、一定の評価をいただいた。
- 特に「誠実さ」「身近さ」について評価をいただけたのは、グループでの質疑で、膝を突き合わせた直接の対話を行ったことが、影響したものと考えられる。

質 問	選択項目	回答
NUMOの説明はわかりやすい	そう思う	3 1
	どちらかといえばそう思う	3 7
	どちらともいえない	9
	どちらかといえばそう思わない	3
	そう思わない	1
	無回答	1 9
納得できた	そう思う	2 6
	そう思うどちらかといえばそう思う	3 4
	どちらともいえない	1 1
	どちらかといえばそう思わない	5
	そう思わない	5
	無回答	1 9
誠実だった	そう思う	4 8
	どちらかといえばそう思う	2 4
	どちらともいえない	6
	どちらかといえばそう思わない	1
	そう思わない	1
	無回答	2 0
身近に感じた	そう思う	2 9
	どちらかといえばそう思う	3 1
	どちらともいえない	1 4
	どちらかといえばそう思わない	3
	そう思わない	3
	無回答	2 0

<グループ質疑の風景（神戸会場）>



3-5. 「地層処分セミナー」におけるアンケート結果と評価

(4) アンケートに記載された留意すべき個別意見

- 個別意見としては、今後知りたい内容として「海外の事例」「事業のコスト」「事業の安全性」「事業のスケジュール」があげられた。その他、プレゼン方法に関する意見も多く寄せられた。

項目	具体的意見
今後知りたいこと	(海外の事例) ・スウェーデンなど先行している国の状況をくわしく知りたい。 ・スウェーデンの市長、管理会社だけでなく、市民団体の方も、どういう気持ちで受け入れを行っていったのか、話を聞いてみたい。
	(コスト) ・事業実施にかかる費用 ・安全性とコストについてもっとわかりやすく知りたい。
	(安全性) ・原発アレルギーの人が多いいのでいかに安全か、地下で燃料が割れても放射能は大丈夫、漏れ出しの危険への配慮など、気を長くもって説得（説明）してほしい。 ・安全評価の詳細について知りたい。 ・安全性への取り組みは理解できた。それでも何か起きたとき、有事の際のケアを考えているのか。
	(スケジュール) ・これからの調査の進展や予定などをできるだけ知りたい。 ・科学的有望地が公表されてから、自治体の関心表明、国からの申し込みまでの実際の手続きの進め方について知りたくなった。 ・科学的有望地提示後の地元理解の進め方について具体的に知りたい。
プレゼン方法	・説明が冗長、単調で、関心を持って聞きたくなるプレゼンではない。 ・つかみが弱い。関心を持ってきてみたが、惹かれるものがなかった。 ・手元の資料を読み上げているだけなので、時間がもったいない。 (＊初期段階で上記指摘を頂いたため、プログラム等を変更し、その後は同様の指摘は受けていない。)

4. 「地層処分セミナー」を踏まえた今後の対話活動のあり方

＜科学的有望地提示後の対話活動への反映事項＞

- 「地層処分セミナー」のアンケート結果では、「満足度」「理解度」「NUMO職員」に関する設問については総じて、肯定的意見をいただいた。
- 「地層処分に対する考え」に関する設問における、①**「地層処分適地が日本に存在すること」**、②**「地層処分事業の安全性」**については、具体的に提示された後でないと「どちらともいえない」とする慎重な意見も見られた。
 - ①については、「科学的有望地が提示されるまでは、判断できない」とする意見があったことから、提示された科学的有望地の考え方を正確かつ丁寧に説明し、日本にも地層処分適地となりうる場所が存在することについて理解を促進する。
 - ②については、「地層処分の前例がなく、安全性に確信が持てない」との意見があったが、将来、万一の事故が発生したとしても、人間への影響は小さい旨をわかりやすく説明していく。
- 個別意見として寄せられた③**「今後知りたい内容（海外事例、コスト、安全性、スケジュール）」**、④**「プレゼン方法」**に関しては、
 - ③については、「今後知りたい内容」として多くの参加者が挙げた項目については内容を充実させ、具体的な事例をもとに説明するよう工夫する
 - ④については、「説明が冗長」との意見があったことから、説明にメリハリを効かせ、自分の言葉で説明できるよう訓練を重ねている。

以下、参考資料

【参考】全国大のサンプリング調査結果

広報活動の効果が全国大にどの程度到達・浸透しているのかを継続的に把握し、今後の広報活動への参考とするため、N U M Oとして年度調査を実施。（2015.10と2016.2の2回）

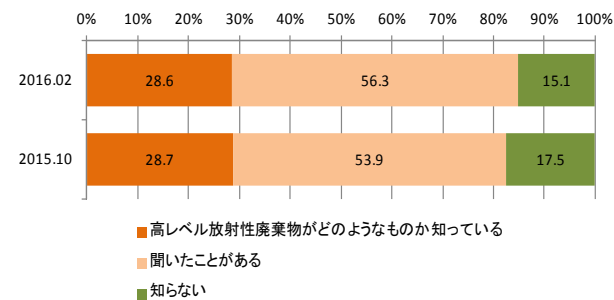
■ 地域・調査対象者：全国 20～60才代の男女

■ 実施方法：インターネットを用いたアンケートによるサンプリング調査

■ サンプル数（各回）：10,000（全国9ブロックの人口を勘案して割り付け）

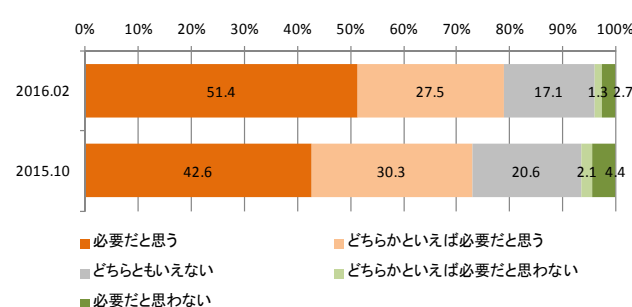
1. 高レベル放射性廃棄物「処分問題の認知度」

質問：あなたは「高レベル放射性廃棄物の処分」という問題についてどの程度ご存知ですか。



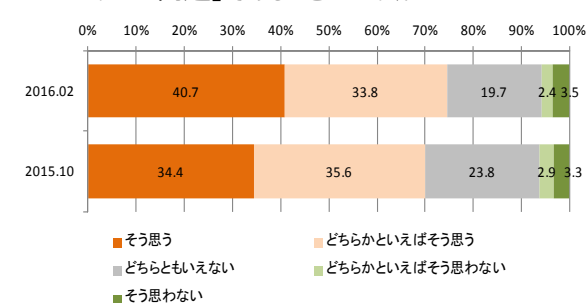
2. 高レベル放射性廃棄物「処分の必要性」

質問：あなたは「高レベル放射性廃棄物の処分」は必要だと思いますか。



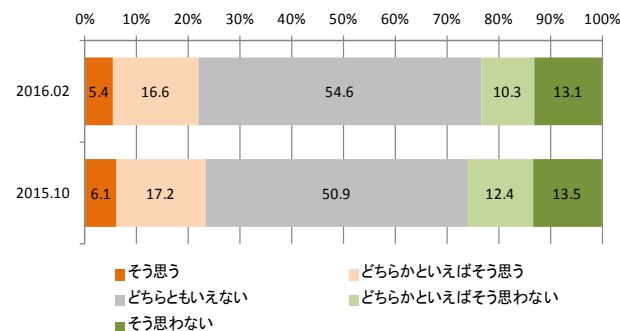
3. 高レベル放射性廃棄物問題は「現世代で解決すべき問題」

質問：あなたは「高レベル放射性廃棄物問題は、「現世代で解決すべき問題」であると思いますか。



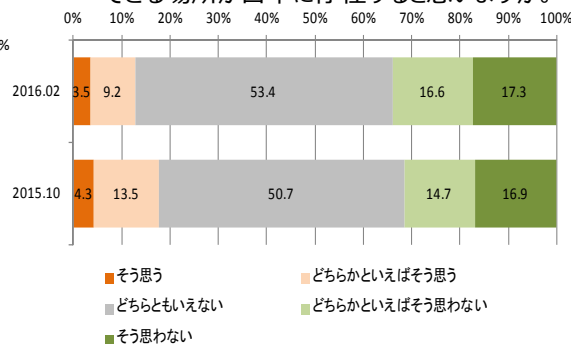
4. 高レベル放射性廃棄物「地層処分の信頼性」

質問：地層処分は最も信頼できる処分方法であると思いますか。



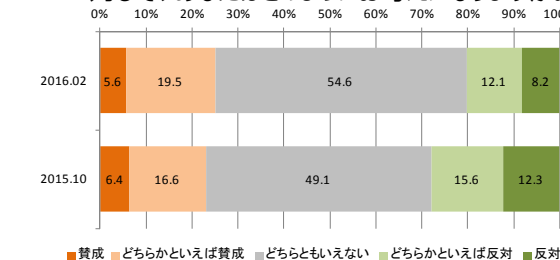
5. 高レベル放射性廃棄物「適地の存在」

質問：地質環境などが地層処分に適し、安全に処分ができる場所が日本に存在すると思いますか。



6. 高レベル放射性廃棄物「地層処分の賛成度」

質問：「高レベル放射性廃棄物の地層処分」を進めることに対して、あなたはどのようにお考えになりますか。



【参考】全国アンケート(インターネット調査)の実施

➤国民の地層処分に関する認知度・関心度等を定期的に調査する全国アンケート(インターネット調査)を実施し、広報活動に活用している。

【例】「高レベル放射性廃棄物の認知」に関する調査結果と広報活動

- 「どのようなものか知っている」は28.6%に止まるが、「聞いたことがある」を合わせると84.9%であり、現状では、言葉だけの認知はあまり必要ではなく、ある程度内容まで理解いただくような活用が重要であることを示している。
⇒ 機構設立当時に行った数秒間のCMなどではなく、内容まで丁寧に伝える広報活動を展開
 - ・新聞、WEB等における対談広告掲載 ・テレビ(BS)による広報番組放送 等
- スコアは、女性は男性に比して低く、男女ともに年齢が上がるほど高い。
国民全般に理解を広げていくためには、そのような層に対するアプローチが重要であることを示している。
⇒ 女性、若い世代を対象にした活動を実施
 - ・女性団体向け説明会 ・出前授業 ・地層処分移動模型展示車イベント 等
- 地域別に大きな差異はない。
⇒ 特定の地域に偏らず、全国を対象に活動を実施
 - ・全国9都市シンポジウム ・地層処分セミナー ・全国地方紙への広告出稿 等

【参考】地層処分事業への理解促進に向けた取り組み

(1) 国際セミナー・講演会

諸外国の先進事例を紹介する取り組みとして、

2016年3月28日、スウェーデンのエストハンマル市長、実施主体(SKB社)のサイーダ副社長を招致したシンポジウムを開催した。(開催地：東京)

シンポジウムでは、スウェーデンの合意形成活動を紹介した上で、登壇者でパネルディスカッションを実施した。参加者数は268人と盛況であり、参加者アンケートの結果も好評であった。

2016年度も引き続き、世界各国における地層処分事業の取り組みを情報提供することが重要と考え、海外の実施主体や関係機関等の関係者の来日に合わせ、その経験・技術的知見から地域共生の考え方等に至るまで、幅広いテーマで講演会等を開催している。



パネルディスカッション



エストハンマル市長の講演

【参考】地層処分事業への理解促進に向けた取り組み

国際セミナー「地層処分の安全性に関するコミュニケーション」

1. 開催日：2016年6月2日（木）
2. 場 所：港区芝 建築会館ホール
3. 概 要：
 - ・スウェーデン、スイス、フィンランド、フランス、米国の各実施主体や関係機関の技術者から、安全性に関する一般住民への情報提供の仕方や経験についてショートプレゼン。
 - ・パネルディスカッションを通じて各国の取り組みを深掘りし、討議。
4. 主 催：NUMO
5. 結 果：参加者からは「海外の方の発言は大変説得力があり、有意義に感じました」「海外の取り組みを直接聞くことができる機会は有益。」等の声があった。



国際講演会「スイスのサイト選定におけるコミュニケーション活動」

1. 開催日：2016年7月8日（金）
2. 場 所：大手町 サンケイプラザ
3. 概 要：
 - ・スイスの地層処分実施主体NAGRA CEO（トーマス・エルンスト氏）によるスイスの処分事業の現状に関する講演の後、竹内 純子氏とNUMO近藤理事長との鼎談を実施。全国を対象とした理解活動や地域での対話活動等に関して意見交換を行った。
4. 主 催：NUMO
5. 結 果：参加者からは「今回のセミナーはスイスの取り組みをわかりやすく伝えてもらいよかった」「海外での成功事例を積極的に取り入れ理解活動に具体的に活用してほしい」等の声があった。

講演会、鼎談、シンポジウム形式、セミナー形式など講演テーマ等に適した開催の仕方を工夫する。

引き続き、海外関係者の来日時等に合わせて効率的に開催し、様々な海外情報を紹介していく。

【参考】地層処分事業への理解促進に向けた取組み

(2)広報素材の充実

- ・安全確保策、海外の取り組みを充実
- ・科学的有望地の提示を見据え、地層処分へのさらなる理解獲得のためのDVDを制作。
- ・学校教育等での使用等を想定し、新たな広報素材を整備中。

▶▶ 「NUMOパンフレット等PRツールの見直し」(修正作業中)

部門横断チームを発足(5月)し、科学的有望地提示後に使用するPRツール作成中。安全確保策について重点的に説明できるよう検討中。

▶▶ 教育基本教材の開発(パイロット版作成済み)

文科省の学習指導要領の単元に関連づけた基本教材(小学生「ごみ」、中学生「エネルギー問題」から導入)のパイロット版を開発。NUMOホームページ内教員向けポータルサイト(エネルギー教育支援サイト)や教育関係紙への掲載により全国へ情報発信。



基本教材
(中学校向け)



基本教材
(小学校向け)

▶▶ 小学校向け説明資料の整備(準備中)

小学校での出前授業で用いる説明資料用スライド資料を作成中。低年齢層にも理解しやすい記述や表現を工夫する。



NUMOからの情報提供(小学校)

▶▶ 「地層処分における調査の進め方」(作成済み)



「地層処分における調査の進め方」
(DVDパッケージイメージ)

地層処分における地質環境調査の進め方をCGやNUMO職員へのインタビュー等でビジュアル的に説明。さらに三段階の調査で適用する技術の紹介に加え、地域の意見反映の仕組みを紹介。

(3)地層処分模型展示車「ジオ・ミライ号」による巡回説明

a.目的・実施内容

- ・全国各地で地層処分について知っていただく機会を設けることを目的に、次世代層の来場が期待できる科学館・商業施設・公園等へ地層処分模型展示車「ジオ・ミライ号」を派遣。
地層処分に関する3D映像の上映やベントナイトを用いた理科実験等を通じて情報提供。

b.2016年度実施（2016年5月21日～8月31日）

- ・実績：15ヶ所、34日間、16,961人
（2015年度実績 29ヶ所、54日間、16,892人）
※新たに小型展示ツールのペッパーを活用し、親子連れの滞在時間を増加させる試みを実施中。
- ・年度目標： 30～40ヶ所、60～80日間実施。
来場者 20,000人～25,000人。

c.今後の取り組み

- ・ファミリー層（「女性層」「次世代層」）への情報提供を継続。
- ・新規訪問先（科学館等）を増やしていく（右表★は初開催）。
- ・ペッパー以外の新しい展示物として、見るだけでなく手にとって触っていただける体験ものとして、ガラス固化体ミニチュア模型などを作成し、各種イベントにて活用中。
→展示車が入れない屋内会場等における開催機会を開拓。



ジオ・ミライ号



ペッパー

【参考】地層処分事業への理解促進に向けた取り組み

(4) 情報アクセスの確保と適切な情報発信

a. ウェブサイト

- ・海外の状況を紹介するためにデザインを刷新。
- ・安全確保に関するテーマの充実をはかるため、企画検討中。

【海外の状況】

海外の状況に係るトピックス等、更新情報を見やすく表示。

NUMO ホームページと地層処分ポータルサイトのトップページにバナーを掲載。

原子力環境整備促進・資金管理センターへのリンクを設置。諸外国での進捗状況や最新情報を掲載。

b. メルマガ、Facebook

- ・SNS(Facebook)、メルマガ発信を継続
- ・情報提供の多様性と迅速性を向上

【メールマガジン】

- ・2014年度に報道関係者向けに開始後、2015年度より一般向けにも配信拡大。
- ・月に2回以上のペースで発行し、タイムリーな情報提供を行う。
- ・登録者数：約1,500名（2014年度）→6,295名（8/19現在）

【Facebook】

- ・2015年5月に開設。
- ・各種イベントの案内と結果概要報告等を掲載。多様な情報を発信する。
- ・2016年5月に1万「いいね！」突破。（10,636件 8/23現在）
- ・2016年8月より、動画発信にも取り組んでいる

(5) マスメディアへの情報提供

地方メディアに地層処分事業の情報提供やNUMO事業イベントの周知を実施。

<地元（現地）マスコミ対応>

- ・2015秋に開催したシンポジウム以降、全国の地方新聞社本社45社のうち32社を訪問済み。
- ・5～6月シンポジウムにあわせた全国の地方新聞社本社訪問：19社
（理事が各社の論説委員もしくは編集部長を訪問）
- ・7月以降の地層処分セミナー開催にあわせ、残りの全国の地方新聞社本社を理事が訪問し地層処分事業の理解促進に向け、論説委員等と意見交換を実施。

<地方新聞東京支社対応>

- ・全国の地方紙東京支社を月1回程度訪問し、事業情報の提供、イベントの周知をするなど、地道な情報提供を継続し、先方から「適宜情報をいただきありがたい」と、一定の評価を得ている。
- ・全国の地方紙の東京支社長対象にした視察会（幌延）を実施。（7月）
- ・全国の地方紙記者を対象に地下500mまでの視察が可能になった瑞浪の施設について、視察会を検討中。

【参考】地層処分事業への理解促進に向けた取り組み

(6)学習したい方への対応

【2016年度委託事業】

- ・地域で活動を行っている全国各地の諸団体の方々に、地層処分が国民的課題であり、解決しなければならない問題であることについて、理解を深めていただくことを目的に、これら諸団体の学習活動を支援する。

NUMO以外の立場の専門家等の意見を聞く場（講演会等）も提供。

- ＊学習活動支援は、団体の方々の希望を踏まえて、第三者機関がNUMOからの委託により実施するほか、NUMO自身も直接勉強会等を実施している。

(募集)

- ・ホームページ、SNS、メルマガ等による情報提供
- ・商工団体、自治体・経済団体へのリーフレット配布
- ・シンポジウム、ワークショップ等でのPR など

→115団体の募集に対し、全国の経済団体、教育関係者、NPO等78団体が申込み。(8/23現在)

(支援内容)

- ・活動期間：活動開始～年度内
- ・実施内容：あらかじめ用意されたメニューより選択

〔メニュー例〕

- ・勉強会、講演会（NUMOから講師派遣、大学・研究機関から専門家招聘）
- ・地層処分関連施設の見学（瑞浪・幌延等研究施設、六ヶ所・東海村サイクル施設）
- ・地層処分を契機とした地域振興検討（まちづくりビジョン調査、地域プランナー勉強会、六ヶ所・東海村など先進地見学）
- ・地域での情報共有ツールの作成、配布（パンフレット、チラシ、DVD等）
- ・地域での意見交換会（NUMOとの意見交換会、ファシリテーターの招聘）



- ・支援団体選定方法：所定の選定基準により、応募受付の都度選定

【参考】地層処分事業への理解促進に向けた取り組み

【2015年度委託事業の結果】

科学的有望地提示の検討状況を踏まえ、2016年度から実施している3自治体・9地域団体の募集に加え、2015年度途中から60団体に増枠した事業を新規追加実施した。

従来からの継続実施分

- ・3自治体、9団体の募集枠に対して17団体が応募
- ・参加人数 693人
- ・内訳：識者・技術関係1、学校・教育関係2、
商工団体1、NPO3、女性団体1
- ・9団体のうち6団体が複数回（複数年）の継続参加

2015年度の新規実施分

- ・最終募集枠60団体に対して52団体が活動
- ・参加人数 1,527人
- ・内訳：識者・技術関係12、学校・教育関係9、
商工団体6、NPO8、女性団体5
- ・活動内容：勉強会42件、施設見学43件、
意見交換会12件

**委託事業とNUMO直営勉強会を総合すると44都道府県で開催済み。
全国で地層処分に関する学習が進められている。**

【評価／今後の取り組み】

- ・2015年度は当初募集枠50団体を超える応募をいただいて期中増枠し、2016年度も募集枠115団体に対して6月26日時点で既に70団体の応募をいただくなど好評。
- ・年度末に各支援団体合同で「成果報告会」や「交流会」を開催。全国で関心をお持ちいただいている方々の間での意見交換や交流などに寄与している。
- ・今後とも全国各地で地層処分について継続的に学習していただける機会を提供できるよう体制を整備し、積極的にPRしていく。



交流会の様様

【参考】地層処分事業への理解促進に向けた取り組み

(7)夏休み次世代層向けイベントの実施

- ・ファミリー層（次世代層）の参加を得やすい夏休み期間に各種イベントを開催し、他所のイベントにも参加する。
- ・JAEAなどと協調し、より効果的なイベントとなるように内容を工夫する。

<実施結果>

	①経産省 霞が関子供デー	②親子サマーツアー	③地層処分模型 展示車出展強化	④科学技術館 イベント	⑤丸の内 キッズジャンボリー	⑥夏休み ホームページ
新規/継続	継続	継続	継続	新規	新規	新規
実施時期	7/27,28	7/29,8/3	7月下旬～8月 (20日間程度)	8/20,21	8/16～18	7/15～8/31
場所	経産省中庭 (東京都)	瑞浪深地層研究 所(岐阜県)	全国各地 (8箇所程度)	科学技術館 (東京)	東京国際フォーラム (東京)	—
内容	地層処分 模型展示車 出展	施設見学 講義・実験	地層処分模型 展示車出展 (平日も実施)	親子向け教室 (実験・工作等)	親子向け教室 模型展示	夏休み自由研究素 材提供 他
来訪者	のべ1,755人	20組40名	のべ7,754人 (7/23～8/31)	のべ2,610人	のべ3,260人	アクセス数 40,132PV (7/15～8/28)
協力	JAEA	JAEA	—	JAEA,科学技術館 日本原子力学会 関東甲越支部	—	—